学校改革！教員の時間創造プロジェクト

ニュースレター　2019 年度第2号

≪Ｒｅｐｏｒｔ≫　楽々！「欠席・遅刻届け出システム」活用について。

五福小学校

2 学期から開始しました。ホームページ上に登録用紙をアップしています。保護者の方は、必要な時に QR コードを読み取っていつでもアクセスできます。連絡帳、電話、安心メール、保護者の方の連絡の選択肢が増えました。職員は、タブレットで確認もできます。保護者も先生もやりやすい方法でやっていただいています。

倉迫校長先生・塩山教頭先生

※五福小学校のホームージには、児童の活動写真や行事予定表なども掲載されています。

（☞保護者からの日程確認の電話が減ったそうです）

白川中学校

導入後も、電話の連絡と半分半分です。当校では 7 時 30 分に留守番電話を解除しますので、それより前に連絡したい保護者の方が使われているようです。メールでの連絡の方が負担が少ないという保護者の声もあります。もちろん、保護者と直接連絡が必要な場合は、担任から電話連絡をします。

担任は自分のタブレットで、欠席や遅刻の連絡を確認しています。

徳永校長先生　松永教頭先生

江原中学校　東教頭先生

2 学期から運用を開始しました。電話で受けた連絡も、受けた職員（教頭、事務、教務主任など）が、自分のパソコンからシステムに追加記入し、欠席遅刻の一覧表を職員室の大型モニターに映し出すようにしています。これまで、口頭やメモ等で担任に伝えていましたが、朝の忙しい時間に担任を探して口頭で伝えなくてもいいという負担の軽減につながり、机に置いたはずのメモが紛失するといった連絡ミス等がなくなりました。担任は教室に行くときに、モニターを確認します。また、全職員が欠席遅刻の状況を確認できます。11 月上旬にタブレットが導入されてからは、欠席遅刻の一覧表を担任が教室でも見られるようになりました。

長嶺小学校

中島教頭先生・藤川教頭先生

はじめは、保護者にご不便をおかけしないか心配しましたが、メール連絡は当たり前の時代。保護者の方が進んでいると感じました。保護者の方にも喜んでいただいています。

以前は、朝から教頭は二人とも電話の前に張り付いて対応をしていましたが、導入後は、職員室から出て校内を回ったり、校門に立って子どもの様子を見に行ったりできるようになりました。先生方からの貴重な相談の時間にもなっています。先生方が教室に行かれた後も、欠席や遅刻の連絡がありますが、担任の先生は教室でタブレットを使い確認できます。

（※このメールを活用した欠席連絡は、休日の部活動の欠席連絡にも活用！）

☞朝、教頭先生が余裕をもって先生方に対応できる。その余裕が学校全体の雰囲気をよくしています。（森江校長先生談）

◆トピックス

教員の時間創造シンポジウムを開催します！

日時：令和 2 年 1 月 14 日（火）18:30～20:30
場所：ウェルパルくまもと

保護者の方が対象のため、遅い時間の開催にしました。

働き方改革なのに、この時間設定。本当は、多くの先生方に聞いて頂きたいのですが、希望者のみの参加にしました。

第 2 部では参加者の質問を受けながらトークセッションを実施します。

先生、保護者、教育委員会、みんなで働き方改革について考えませんか？

ご興味のある方、ぜひ、ご参加ください。

文部科学省の働き方改革フォーラムで長嶺中学校の事例紹介！

令和 2 年 1 月 31 日（金）に文部科学省の働き方改革フォーラムが開催されます。

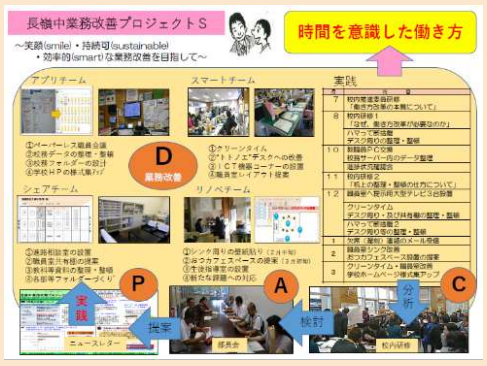
その中で、昨年度の学校業務改善モデル校、長嶺中学校が取り上げられることとなりました。

先日、フォーラムで流される映像の撮影が、2 日間に渡って長嶺中学校で行われました。

映像紹介ではたくさんの先生方が出演されます。

タイトルは、「プロジェクトチーム結成による働き方改革！」

後日、文部科学省のホームページに掲載される予定です。

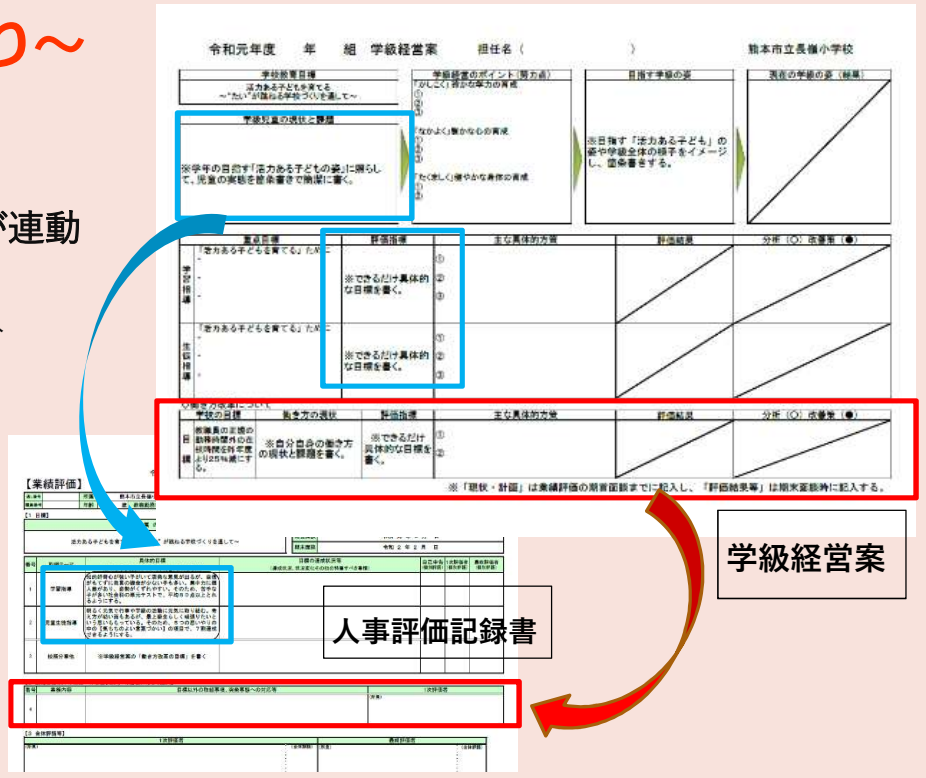


長嶺小学校（学級数：37、職員数：62 人）

時間外の在校時間が月 80 時間を超える職員：０人　　時間外の在校時間の１か月平均：３３時間１分　（令和元年度 10 月現在）

～“たい”が跳ねる学校づくり～

「やりたい人が、やりたいことをする！」



■ 学校経営重点計画⇒学年経営案⇒学級経営案⇒人事評価が連動

・上位目標がしっかりと共有されており、教頭先生も指導がしやすいそうです。また、学級経営案にも働き方改革の項目を設け、何に取組むか自分で考え記載し、常に意識するような仕組みづくりをされています。

☞人事評価と学級経営が連動。先生方のやり“たい”ことを支援、評価。

■「教頭先生を早く帰そう大作戦！」を実施中

・教頭２名体制のため、どちらか１人は交代で早く帰るように努める。

・定時退勤しない教頭先生は、戸締り時に大きな声で帰る時間を宣言！

「今日、私は〇時に帰り“たい”」

・校長先生の声掛けで、教頭先生が宣言時間を守れるよう全職員が協力。

■ 「大人もやり“たい”PTA 活動」の工夫へ

・お知らせは基本的に、安心メールにファイルを添付して通知。ホームページにも掲載し、メールにホームページのリンクを張っている。

☞配布物が激減。特に、帰りの会で配っていたプリント類が減り、担任の先生と子どもたちが、じっくりと一日の振り返りができるような時間を確保することが可能となった。

・PTA 総会の出席連絡や委任状の提出にも、安心メールのアンケート機能を活用。☞教頭・担任：配布・収集・集計作業が削減。

・PTA からの文書（お知らせや活動報告）は、データをホームページ上に掲載。☞ＰＴＡ役員：学校へ来て印刷や仕分けの手間が削減。

・PTA 学年活動の行事内容を固定。☞ PTA 学年委員：毎年活動内容が決まっているので、前年度のやり方を参考にでき役員の負担が軽減。

・PTA 会員一人一役制を廃止し、やり“たい”人が委員になる。やり“たい”人がいない委員会は、廃止の方向を検討する。

☞魅力ある PTA 活動として、「学ぼうさいｷｬﾝﾌﾟ」「ﾐｽﾃﾘｰﾅｲﾄ」「親子鬼ごっこ」「ｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝ設置」等を実施。楽しいからやり“たい”「大人の特活」

森江校長先生

私も昔は長時間働いていました。ある時先輩から「この仕事は終わりがない。早く帰って明日も元気に仕事をしてはどう？」と言われたことが一つのきっかけで、自分の働き方を考えるようになりました。

仕事の区切りをつけるのは難しいですが、家に帰っても「明日の授業でどんな話をしようか？」とか「子どもたちはどんな反応をするかな？」と考える事は仕事というよりは、教員としての喜びでした。

※取組をご紹介いただける学校を募集しています！

◆プロジェクト会議報告

令和元年 11 月 21 日（木）今年度第４回目のプロジェクト会議を開催しました。主な意見交換の内容は以下のとおりです

【議題】

・新年度の予算要求状況について

・学校現場からの要望と継続案件の進捗状況

・目標達成に向けた方策についての意見交換

【先生方の意見】

・保護者の方の価値観が多様化しており対応が困難。話を聞いてくれる方の存在があると少しでも負担が軽くなるのではないか？

・学校徴収金について、当初の予定よりスケジュールが遅くなったことで現場は不安になっていたが、Ｑ＆Ａが出たことで、大きな不安を持っている人は減ってきているのではないか？

・街頭指導について、「学校の先生が来てくれたらありがたい。」といわれると、今までと変わらない。言いにくいことも教育委員会の方針として出してもらうことで、安心して働き方改革を進められる。

・市立２校だけでも、合格者一覧をグループウェア等で発信してもらいたい。そうすることで、確認のために高校まで行く時間が削減される。

・小学校高学年の教科担任制を充実させ、そこに１人加配してもらいたい。その時間に、ノートを見たり保護者と連絡をしたりできる。

「現場の声」を聴かせてください！

学校が働きやすい職場となるように、先生方の声を聴きながらともに取組んでいきたいと考えています。

働き方に関するご意見やアイデア、ニュースレターのご感想などがありましたらお寄せください。

■提出方法　校務支援システム＞メッセージ機能にて【教育政策課 03】へメールにて送信してください

熊本市目標　１：正規の勤務時間外の在校時間が**１か月８０時間**を超える教職員数**０人**

２：教職員の正規の勤務時間外の在校時間　対Ｈ２９実績比で**２５％削減**

発行：　熊本市教育委員会事務局　教育総務部
教育政策課　学校改革推進室
TEL：（０９６）３２８－２７０８